

地域おこし協力隊石鏡町活性化・海女のまち暮らし担当の佐藤千裕です。2019年の10月末から石鏡町を拠点とした活動をしてきて、早いもので3年以上が過ぎ任期を迎えることとなりました。

私が着任して間もない頃に新型コロナウイルスの感染が拡大し、本来行うはずの移住フェアなどの地域PR活動が中止となったこともあり、活動は自然と地域の内側に目を向けたものとなりました。

活動内容は、石鏡町内会や石鏡町活性化会、集落支援員さ



石鏡町おさんぽマップ



色を塗り直して生まれ変わった壁画

などと協力して、屋号を含めた石鏡町独自の名簿や空き家と独居老人宅が記載された地図を作成したり、鳥羽高校の地域学習の授業で生徒と一緒に石鏡町のおさんぽマップを作成したりと、少しずつ自分のできることを進めてきました。

また、地元の左官屋さんが声をかけてくれ、街の道路沿いにあったレリーフ状の壁画を修繕することになりました。大きな壁画でしたが、海



佐藤千裕 隊員

女さんや子どもたちなど地域のかたがたの力を借りて完成することができました。幅10メートル以上もの壁画が生まれ変わり、地域のかたや観光客のかたに楽しんでいただいています。作業中に「やーいー美しゅうなっ たなあ！」と海女さんらに声をかけてもらえたこともうれしかったです。大学で美術を専攻していたので、自分のできることで地域貢献ができたことが何よりありがたかったです。

そして協力隊の活動とは別になりますが、海女としての暮らしもありました。実力は半人前のままでしたが、ほかではできない素晴らしい体験をさせていただきました。石鏡の海女さんたちはパワフルでとにかく元気！ウエットスーツを着て海に向かうその姿がとても格好良く、移住したばかりの頃は憧れの眼差しを向けていました。そんな私も勇気を出して先輩海女さんらに教わりながら潜ってみましたが、波酔いやら息が続かないやらで悪戦苦闘の日々でした。それでも諦めずに潜りつづけ、初めてアワビをとったときの喜びは今でも忘れられません。そして1年目よりも2年目のほうが獲れ

るようになった！と成長が目に見えることがとてもうれしかったです。

石鏡町での暮らしは私にとって大冒険の日々で、ここでしか見れなかった景色や体験がありました。町民のみなさんに親切にいただいたのおかげで暮らしができたこと、本当に感謝しかありません。令和5年3月で協力隊の任期を終えてここを離れることになりましたが、石鏡をはじめとした鳥羽市とのつながりを絶えず大切にしていきたいと思っていますし、海女の魅力を色んなかたに伝え続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、お世話になった鳥羽のみなさん、石鏡町のみなさんに心から感謝申し上げます。3年間本当にどうもありがとうございました。

